

令和2年度 中間貯蔵事業技術検討会(第1回) 議事要旨

1. 日 時：令和2年10月29日(木) 10:00～12:00
2. 開催方法：WEB(オンライン)開催／JESCO 本社5階A会議室
3. 出席委員：森田委員長、大迫委員、勝見委員、国包委員、吉岡委員
(オブザーバー) 環境省

4. 議 題：

(1) 令和2年度における JESCO 技術検討業務について

令和2年度における中間貯蔵事業の進捗や除去土壌等の減容・再生利用の技術開発等を踏まえ、どのような考えのもとで JESCO は調査研究・技術開発を進めていくことが必要かなどについて論点及び具体的な取組を説明。

主なコメント等は以下のとおり。

- ・ JESCO が直接関与しない部分も含め、減容・再生利用技術の開発全般について整理していることは事業全体像の理解に有用である。今後 JESCO として中間貯蔵施設区域外の有効利用・再生利用事業にどう関与していくのかも論点になると考えられる。
- ・ 最終処分に関しては、2045年の県外最終処分に向け必要な措置を講ずることとしていることを踏まえ、最終処分から見た中間貯蔵・減容化・再生利用の技術的な検討を始め、予測的な見方で減容化処理のあり方を検討していったらどうか。また、公募実証事業の中でも最終処分に向けた技術開発を促す必要があるのではないか。
- ・ 最終処分に向けた理解醸成の取り組みについては人材育成も含め、今後どうやってフォローし社会実装していくのか、早めに詰めておくとよい。

(2) 技術的調査・検討業務等の報告及び進捗状況について

- ・ 除去土壌の再生利用時の安全性や安定性に関する実証試験について、アルカリ性土質改良材使用時の環境影響への懸念について実証していることは有用である。また、除去土壌に限らずアルカリ性土質改良材の環境影響一般に関しても寄与できるものと考えられる。
- ・ 盛土試験等については、再生利用を考慮していろいろなデータを整理することが必要である。
- ・ 実際の施設から出てくる飛灰の性状も変化してきているので最新の運転条件に基づいて生成した飛灰を用いた追加試験も必要ではないか。

(3) その他(報告事項)

- ・ 浸出水の分析結果・考察等については専門家の意見を聞いて維持管理にどのように活用するか役立てるとよい。

以上